令和８年度富山県立大学入学式式辞

今日ここに迎えた７５５名の新入生の皆さん、そして、ご家族の皆様、ご入学おめでとうございます。今日の日を迎えられたことを心よりお喜び申しあげます。私たち教職員は、心から皆さんのご入学を歓迎いたします。

また、本日は、新田富山県知事をはじめ多くのご来賓の皆様のご列席のもと、令和８年度富山県立大学の入学式を挙行できますことは誠に喜ばしく、教職員を代表し、関係の皆様方に、心から御礼を申し上げます。

皆さんは、入学試験に見事合格され、めでたく本日の入学式を迎えられました。こうして選ばれた皆さんは、自ら研鑽に励み、地域、そして日本、世界の発展を担う人財として立派に成長し、社会に貢献されるものと期待しています。

本学は、平成２年に日本海側で初の工学系の大学として創設され、開学以来、富山県の知の拠点となるべく、地域の課題やニーズに的確に応えるとともに、世界に通用する研究を展開し、学生一人ひとりの能力を伸ばす教育を実践してまいりました。その後、大学の拡充を図り、看護学部、情報工学部を新設し、現在は３学部体制となっています、ものづくり分野に加え、医療・介護分野においても優秀な人材育成に寄与しています。

大学院では、今年度から情報工学研究科が開設され、工学研究科、看護学研究科と合わせて、３研究科体制となりました。大学院の定員も増加しており、今後、高度な専門人材の育成、リカレント教育の充実に、より一層取り組んでまいります。

ここ富山県は、日本を代表するものづくりの集積地の一つです。医薬品産業は全国有数の規模を誇り、アルミ産業は高度な加工技術によって発展してきました。また、機械や電子部品などの分野でも、多くの企業が高い技術力を持ち、国内外の産業を支えています。本学は、こうした富山の産業と密接に連携しながら教育と研究を進めています。学生の皆さんが大学で学ぶ工学やデジタル技術、看護学は、地域の産業や社会の課題と結びつきながら、新しい価値を生み出す力となっていきます。大学での学びを通じて、社会の現実に向き合い、未来を切り拓く力を養ってください。

さて、私は、昨年度の入学式において、新入生の皆さんに期待することを三つお話ししました。その項目は今も変わりませんが、本日は少し視点を変えてお伝えしたいと思います。

第一は、「国際的な感覚を持つこと」です。

地域社会は人口減少と超高齢化という大きな課題に直面しています。こうした

課題に向き合うには、ローカルな視点に加え、グローバルな視野が不可欠です。異なる価値観や考え方に触れることで、新たな発想が生まれます。本学には海外研修の機会があります。参加した学生は皆、視野が広がったと語ります。私自身も海外での研究経験を通じて、多様性の重要性を実感しました。

ただ、国際性を培うのは、海外に行かなくてもできることがあります。語学力の向上、国内での国際交流といったことに取り組むのもいいでしょう。また、自分の専門を国際社会でどう生かすかを考えることも重要です。海外の研究動向を学ぶことや英語で研究内容をプレゼンする機会を持つことも有効です。まずは、世界の課題に関心を持つことから始めてください。自らの専門を深めるとともに、多様な価値観を尊重し、世界に開かれた視野を持つ人材へと成長してください。

第二に、「チャレンジ精神を持つこと」です。

現在、技術革新は指数関数的ともいえる速度で進んでいます。とりわけ AI 技術の進展は目覚ましく、社会の在り方そのものを変えつつあります。生成 AI が使えるになったと言われたのはつい最近です。生成 AI の代表格とでもいうべき ChatGPT がリリースされたのが 2022 年末です。それが、あっという間に広く使われるようになり、現在では、一般事務業務でも必要不可欠になっています。最近は、ロボットなどの物理的存在と AI が融合するフィジカル AI の技術の研究開発が加速されています。

今後は AI やロボットと共存する社会が現実となるでしょう。その中で求められるのは、新しいことに果敢に挑む姿勢です。挑戦には失敗も伴いますが、その経験こそが将来の大きな糧となります。失敗から何かを学ぶことは重要です。どうか恐れず、一歩を踏み出してください。

そして、これら２つにも増して大切なのは、「一生付き合える友人を作る」ことです。

孔子は「論語」の中で、「朋有り遠方より来る、亦た楽しからずや」と述べ、志を同じくする仲間と学ぶ喜びを説いています。また、アメリカの実業家アンドリュー・カーネギーは人間関係の重要性を説き、人を動かす秘訣は相手の立場に立つことだと教えています。カーネギーは、情報科学分野では世界一とも言われるカーネギー・メロン大学を設立した人物です。彼の著書「人を動かす」は、どのように人とかかわっていくべきかを示した名著です。

私自身、大学の学科や研究室の中で友人を作りました。特に、研究室で一緒に研究生活を送った仲間とは、社会に出た後も、新しい技術を教えあったり、大学での教育や研究に関する考え方を議論しあったりと、生涯にわたり助け合う関係になっています。昨年 4 月に富山県立大学に着任しましたが、その時も、富山出身の同級生や後輩がいたおかげで、彼らから富山の歴史・文化・生活について事

前に話を聞くことができました。

また、卒業後、国立の研究所に就職したのですが、そこで、海外からのビジターを何人か迎え入れました。そういう人たちと仲良くなり、帰国後も連絡をとり続けていました。そこから、私自身のドイツへの海外留学に繋がりました。あるいは、お互いの教え子が交流し共同研究を行なってきました。彼らとの繋がりは、現在も続いています。

ともに学び、悩み、挑戦した経験を共有する友人は、生涯にわたるかけがえのない財産となります。どうか本学で、互いに高め合える友人を見つけてください。

最後に、再び「論語」の言葉を紹介します。

「学びて時にこれを習う、亦た説（よろこ）ばしからずや」

師の教えてくれたことを学び、それを繰り返し自らのものとする喜び、そのような学びの場を、本学が提供できることを願っております。富山県立大学と教職員は、皆さんが大きく成長できるよう、教育・研究環境の充実に努めてまいります。

本日ここに入学された皆さんが、本学において志を高く掲げ、かけがえのない友と出会い、学びと挑戦を重ねながら大きく成長されることを心より願っております。その歩みが、やがて富山のものづくり、さらには社会の未来を支える力となることを期待しています。

皆さんの前途に幸多からんことを祈念し、式辞といたします。

令和８年４月８日

富山県立大学 学長　　小笠原　司